土地を持たない、農村部の働き手達による活動@*Brasil*

～　ＭＳＴの紹介　～

外国語学部ポルトガル語学科４年
A0056053 田辺洋太

現在の世界、つまりグローバル化された社会で生活する我々は、貧困撲滅や飢餓撲滅など本来ならば全人類が享受できるであろう、衣食住に関する問題を解決しようとさまざまなプログラムを行ってきた。そのような取り組の中には多くの成功と多くの失敗が存在した。私は上からのプログラム、つまり世界機関や政府が主体による取り組みよりも、下からのプログラム、つまり生活苦のなかにいる人間の意志のもと行われた取り組みの方が持続性を持ち、価値ある成功を収めてきたように感じた。

Movimento dos Trabalhadores Rurais Sem Terra（以下 MST）とは、ブラジルの農村部で行われている農地改革運動のことで、土地なし農民運動と呼ばれている。150 万人以上の農民が参加する実力抵抗運動である。リーダーは 1993 年より活動に参加し現ブラジル下院農業改革委員会所属のシッホ=コヘアである。

この運動は下からの改革に属すものであり、その中でも過激な方に部類される。しかし、政府を動かし国内に根付いてきている。さまざまな地域で、さまざまな下からの改革がある。MST はブラジルだから生まれ、そしてブラジルだから受け入れられ、社会変化をもたらす可能性を秘めているのだと思う。貧困や飢餓のような社会問題は、過去に歩んできたその国の文化によって、ひとつひとつがちがうものなのではないだろうか。各地域に根付いた運動でこそ、その国の社会問題が解決するのであろう。

第一章で MST の設立からその目標、第二章でブラジルにおける土地問題の歴史と MST の台頭する背景、第三章で占拠活動の方法と対抗する農場主の間での闘争をブラジル社会とともに見ていき、第四章で MST の草の根運動としての活動を、第五章では現ルーラ政権について簡単にふれていく。

下からの改革はコミュニティーでの共同生活と民主主義を用いることで、成功を収める可能性が高まる。その活動が発展していくためには、地域社会のとの関係が不可欠である。ブラジル独自の社会背景により生まれた MST の活動は、さらに発展しながら現在の世界秩序に変化を与えることが可能であるとして論をとじた。

主要参考文献

小田輝穂著、『カヌードス・百年の記憶』現代企画室、1997。
加茂雄三著、『ラテンアメリカ』自由国民社、1999。
堀坂幸太郎著、『ブラジル新時代』勁草書房、2004。
松下洋、乗浩子編、『ラテンアメリカ　政治と社会』新評論、2004。
中南米情報誌『そんりさ』日本ﾗﾃﾝｱﾒﾘｶ協力ﾈｯﾄﾜｰｸ、79 号、85 号。
http://www.mst.org.br/home.html（MSTﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）
http://www.nikkeyshimbun.com.br/Mainpage.html（日本語版、ﾆｯｹｲ新聞ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）
http://www.spshimbun.com.br/index_jap.cfm?alteraIdioma=J&CFID=474933&CFTOKEN=17335937（日本語版、ｻﾝﾊﾟｳﾛ新聞ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ）
http://www.jimmin.com/2003b/page_014.htm（人民新聞）
http://www.maff.go.jp/kaigai/2002/f_brazil.htm（農林水産省海外農業情報）